

オウル大学（フィンランド）

ついに2026年が始まった。私は初めて海外で年を越した。それもまたフィンランドという、今回の留学という機会がなかったら、人生で一度も訪れないであろうフィンランドの地で、しかも凍った湖の上で、カウントダウンをした。

留学に来ることができた2025年は本当に自分にとって忘れられなくて、かけがえのない一年だったし、2026年もそれを超える、充実した年にしようと思う。

東海大学（台湾）

新年を祝うため、台北のカウントダウンを友達と見に行った。台北は前に一度訪れたことがあるものの新年のカウントダウンを祝える機会はそうそうないため非常に楽しみであった。

一方、混雑など予想しづらかったため事前に台湾の友達に聞いてから入念に予定をたてた。当日の天気はあいにくの雨だったものの、大勢の人と一緒に新年のカウントダウンをするのは初めての経験であり、とても新鮮で貴重な経験であった。

1月1日の台北市内は多くの人であふれており、観光客であろう外国人も多くみられた。普段生活している台中市ではあまり見かけることがないので、同じ台湾であったとしても違う場所に来てしまったのかというように思えた。

帰りのバスでは偶然日本から交換留学に来ている人に出会い、話してみたところなんと共通の友人がいることが分かり、世界は意外と狭いのかもとも思える、そんな奇跡のような体験をした。



エトヴェシュ・ローランド大学（ハンガリー）

留学の半分が終わったのですが、信じられないくらい時間があっという間に過ぎたな、というのが今の正直な感想です。たくさんの新しい出会いを経験し、英語でのコミュニケーションが上達したし、なにかトラブルがあったときの対処も上手くなったように感じています。

しかし、もう少し語学の勉強に充てる時間が取れたなとか、あの時あのチャンスを逃さずに行動していればよかったな、などの後悔があるのも事実です。留学前半で得た経験や知識、後悔を糧に、留学後半を悔いのないように、有意義な時間を過ごしていきたいと思っています。

オレブロ大学（スウェーデン）

最近はずいぶん日が長くなってきたと感じています。とはいえ、16時30分頃にはまだ真っ暗になりますが、12月頃は15時には暗くなっていたため、日照時間が延びていることを実感でき、前向きな気持ちで生活できています。

2月の終わり頃には春の訪れを感じられるようになるそうなので、今からとても楽しみです。

また、新学期から寮を移動しました。これまでは1人部屋で生活していましたが、心機一転、7人でのシェアハウスに移りました。人数は多いものの、1人部屋の時と比べて孤独感を感じにくく、落ち込みやすい性格の自分にとっては、とても合っている環境だと感じています。

シェアハウスならではの大きなトラブルも今のところなく、住人全員が清潔さを大切にしているため、快適に生活できています。

ヤゲウォー大学（ポーランド）

今月は、自分から行動して友達を増やしたり、日本語学校にお手伝いの打診をしたり、趣味であるダンスのコミュニティに積極的に参加したりと、精力的に活動することができ、とてもよかったです。

ちょうど留学生活も折り返し地点となり、自分の生活を見なおし、何を勉強したいのか、どんな人になりたいのか、どうやって残りの時間を使うべきかと、色々考えさせられました。無駄にしないように、自己研鑽に努めたいと思います。

タマサート大学（タイ）

1月21日から24日にかけて、学部が主催するチェンマイへの旅行に参加しました。

現地の小学生とのCSR活動を主な目的とした旅行でしたが、4日間を通じてスタッフの方々や同じ留学生と交流を深めることができたことが、とても印象に残っています。

特に、大自然に囲まれた宿泊地で過ごした2日間は、夕日や夜空が非常に美しく、心に残る時間となりました。現地の小学生とは、英語を教えたり一緒に身体を動かしたりするアクティビティを行いました。

12月に児童養護施設で子どもたちと関わった際にも感じたことですが、言葉が十分に通じなくても、表情や身振り、活動を共有することで心が通じ合う瞬間があることを改めて実感しました。料理や風景、そこに住む人々を通じてチェンマイの魅力に魅せられた貴重な4日間だったと感じています。

